広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

3月号
平成8年
(1996)
NO.472

ポッカポッカいい湯だなあー

りんご温泉に招待され
大喜びの園児たち

120年の歴史を閉じようとしている三中分校

4月1日より

三中分校が本校に統合 その背景を探る

いま町では、児童数の減少や社会情勢の変化に伴い、分校存続の是非が大きな課題となっています。そんな中、百二十年の歴史を持ち、地域の人々にお城のような「丸窓の学校」として親しまれて来た三中分校が、今年の四月より本校に統合されることになりました。

どういったことで統合に至ったのか、その背景について地区民の声を取材してみました。

三中分校の実例

それでは、三中分校後援会長で八ツ沼区長の佐竹九郎さんを訪ね、四月一日より実施されることになった三中分校の統合の経緯について、お話を伺ってみます。

佐竹九郎さん
（八ツ沼区長）

スクールバスでの通学を検討

佐竹　何年も前から統合の話はあったのですが、学校への地区民の愛着心が強く、統合する気はありませんでした。昨年の九月に行われた三中分校創立百二十周年記念式典の時にも、統合の話はでなかったんです。三中分校は二年生までの学校で、学区は八ツ沼、能中、高田の三区なんです。それで八ツ沼だけではどうする、こうするとは言えなかったこともあり、区の総会でも話はでませんでした。

きっかけは、県道長井・大江線の道路改良工事に伴い、滑田～能中間が二年間通行止めになるため、西五百川小学校に通う能中の児童たちは、八ツ沼経由で通学しなければならなくなったことからなんです。4㌔以上の遠距離で徒歩では心配なため、当分の間、タクシーで送迎してもらうことにしました。

ちょうどその頃は「三中地区に中学校のスクールバスを走らせてほしい」との要望を出していた時で、その話の中から、三中分校の児童もスクールバスで通学してはどうかという意見がでたのです。それを三区に持ち

4月から本校での学校生活が始まる

帰り検討することになりました。

保護者の大多数が統合に賛成

八ツ沼区ではまず、生まれたばかりの赤ちゃんから小学生までの子供をもっている保護者の方に集まってもらい、意見を聞きました。その中で出たことは

①せっかく百二十年続いた分校を、なくすのは問題だ。

②本校に行くと、もらい猫のように小さくなっていなければならなかった。いっそのこと、初めから本校にいくべきである。

③保育園はみんなと同じだったので、二年間分校で過ごした後に三年生で本校に行くと、保育園の時の友達と会うことができて、とてもうれしかった。子供には初めから本校へ行かせたい。

④少人数よりも多くの人と一緒の方が良い。体育館やグランドも広い所でやらせたい。

このように、一年生から本校に行かせたいという意見がほとんどで、統合が良いのではないかという結論になりました。

ただし通学については、「一年生もおり、遠くて徒歩ではかわいそうだ」「民家が少ない所もあり、犯罪など心配される。スクールバスで通わせたい」という強い意見がありました。つまりスクールバスで通学できるのであれば、統合は賛成ということです。

この結果をもとに、その後、区の総会を開き、全区民に経過を説明しました。区民のほとんどの人が「現在子供をもっている方が主役である。時代の流れもあり統合で良い」と理解してくれました。

建築学的にすぐれた三中分校

また、三中分校の校舎は、全国で最も長く使われている校舎と聞いています。しかも、近隣に見られない三層楼の丸窓付和洋風建築物で、文化財的な価値を有し、これまでも文化庁や大学の研究者、県の文化財保護審議会委員などが来校しています。視察をされた多くの方々は三階建ての堂々とした姿の中に、建物の柱などに見られる滑らかな曲線の優美さ、船底天井など西洋風の造作に感心されるとお聞きしております。

このようなことから、多くの区民から「教育資料館として残してほしい」という意見も大多数ありました。

保護者の意見を尊重

その後、三区の総会での結果を持ち寄り、学区会議を開いた結果、「愛着心はあるが、子供をもっている人の意見を尊重し、真に子供のことを考えれば、統合はやむを得ない」と、統合賛成の結論に達したのです。

児童の減少により、運動会も地区民総出でしなければならない状況なのです。学校建設については多額の費用を要するわけですから、もっと先見の目をもって対処してほしいと思います。学校統合については、子を持つ若い衆の意見を尊重すべきです。スクールバスという児童の足を確保することにより、理解が得られるのではないでしょうか。

以上、八ツ沼区長の佐竹九郎さんから、三中分校が統合に至った経緯や、会議での地区民の意見などを紹介してもらいました。

減少する児童数

それでは次に、表1（次のページ）で小学校の児童数の推移を見てみましょう。昭和五十年

度に九百六十人だった児童数は、平成七年度には七百二十二人で二百三十八人（二四・八％）も減少しています。五年後の平成十二年度には、さらに二百十三人（二九・五％）減少し、五百九人となることが予想されます。

思い出多い三中分校での授業も、まもなく終ろうとしている

なぜ、そんなに児童数が少なくなるのでしょうか。その原因とも言われる出生児数を見てみます。昭和五十年度は百四十二人だったのが、昭和六十年度には百十二人、平成六年度では約五五％の七十九人に激減していることが分かります。

このように、少子化や出生率の低下、若い世代が町内に少ないことが、児童数に大きく影響しているのです。現在、朝日町の出生児数は、一年間でおよそ八十人と極端に少なくなってきています。

以上のことから、学校統合は避けては通れない課題と言えます。いま町や議会では、学校統合をどうやって進めて行くのか、について検討を進めており、今後教育座談会を開き、多くの方々から率直なご意見をお聞きして、取り組んで行く考えです。

〔表１〕年度別小学校児童数および出生児数

（平成８年１月現在）

年度	昭和50	昭和60	平成6	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12
児童数	人 960	人 892	人 752	人 722	人 700	人 627	人 594	人 549	人 509
出生児数	人 142	人 112	人 79						

三中分校の思い出

佐竹庄吉さん（高田）

私は終戦二年前に生まれ、三中分校に入学したのは昭和二十四年の春でした。当時の写真を見ると、三十四名の児童と後藤先生が写っていました。

一年生、二年生を合計すると約七十名の児童が、あの小さな学校に入っていたことになります。写真には、和服を着た人、洋服を着た人が写っており、履物もぞうり、短ぐつ、長靴といろいろです。カバンは、紙製のランドセルか風呂敷包みで、とにかく物資が不足した時代でした。教科書も、兄弟とか先輩からの回し読みで、ノートもなく、石筆で字を書いて勉強しました。

しかし私達の頃はそれが当たり前で、不自由に思わなかったのが、今と世相の違いを感じさせられます。

三十四名の同級生は皆仲が良く、団結心があり、どちらかと言えば勉強より遊ぶことに重点を置いており、毎日遊んでばかりで、先生を困らせておったようです。

本校の児童が遠足の帰りに立ち寄って、よく喧嘩をしたものです。その時は、「穴あけ学校、あんか学校」と言われて、くやしがって皆で石をぶつけ合って防戦をしたものでした。それ程三中分校の児童は、あの白壁のお城のような学校に誇りを持っていたのでした。

三年生になって、本校に入学してからも、本校の子供たちには勉強も遊びも何でも負けたくない気持ちがあり、三中の子供たちが喧嘩をしていると、皆で助太刀していました。

冬の登校のことも忘れられない思い出です。まだ除雪が行われない時代なので、大雪が降ると、朝、大人の人の道踏みの後をとぼとぼと歩いて行きました。

学校に着く頃には、体中凍ってカチカチになっていました。先生が火鉢に炭火を起こして待っており、衣服を乾かしてくださり、それから授業をしておりました。

白壁のお城のような建物と、大きなけやきと眺めのよい環境は、私達の地域のシンボルとして、これからも永く心の中に生き続けることと思っております。

3歳児虫歯ゼロのお友だち

佐藤　陸くん
（大谷５・栄）

白田　翔汰くん
（大沼・幸男）

鈴木　裕平くん
（松程・弘巳）

今井　将真くん
（大町・一彦）

長岡のぞみちゃん
（本町・隆）

菅井　崇允くん
（小原・芳弘）

菅井　拓人くん
（大町・信彦）

阿部　智恵ちゃん
（常盤・秀紀）

阿部　勇次くん
（八ツ沼・忠之）

白田　佑樹くん
（大谷２・健一）

菊地　健太くん
（大谷１・秀樹）

長岡　明宏くん
（本町・孝）

清野　理香ちゃん
（古慎・剛）

斉藤　仁美ちゃん
（杉山・義幸）

松田　志穂ちゃん
（太郎２・道明）

分銅　優司くん
（元町・幸夫）

お便りによる 町民の声コーナー

【質問】 山形から来るバス時間と、西五百川に行くバス時間をあわせてほしい。

【回答】 山交の時刻表にあわせて、町の路線バスの時刻表を組んでおりますが、山形から来るバスと西五百川に行くバスの本数が違う関係で、待ち時間ができる場合もあると思いますが、ご理解いただきご了承くださるようお願いします。　**【住民課】**

【質問】 平成七年国勢調査の結果、減少した世帯者の職業について知りたいのですが。

【回答】 国勢調査は五年に一回、全国一斉に実施されます。この調査は調査期日（今回は平成七年十月一日）現在、実際にその町に住んでいる方を対象として行われるものであり、対象者が前回の調査（平成二年）とまったく同じ人ではありません。

このようなことから、世帯数の増減数は把握できますが、対象者が同じでないため個々の比較は出来ず、減少した世帯者の職業は分からない状況です。

【企画商工観光課】

【質問】 朝日町の防災（特に大震災）対策計画について、町の考えを聞きたいのですが。

【回答】 当町の地域防災計画は、主に水害や火災、地すべり等を主眼としたものとなっており、過去において大きな被害の記録がない地震については、あまり重きを置かないものとなっていたのが実態です。阪神・淡路大震災を契機に、地震対策について国の防災基本計画が大幅に見直され、それを受けて県の地域防災計画が現在見直されています。町においても、「震度7」の地震による被害想定とその対応策について現在検討中です。大きな地震は何百年～何千年に一度と言われていますが、万一に備えて出来る限りの体制を取る必要があることは、充分承知をしております。具体的には、危険箇所の見直しや職員の動員配備体制、被害状況等情報の収集伝達体制、広域の応援体制、避難施設の確保、生活必需物資の備蓄等々、現在の計画を大幅に拡充しなければならないと考えております。

【住民課】

笑点でおなじみ 三遊亭好楽さんが講演

生涯学習推進大会

「生きよう、自分らしく、より魅力的に」をテーマとした、第八回朝日町生涯学習推進大会が二月二十五日、中央公民館でおよそ三百人が参加し、盛大に開かれました。

町民大学は、身近な学習の場として八年前に設立。各種文化教室などに単位を設け、自由に選択してもらい、だれもが気軽に参加できる制度です。

大会では始めに、町民大学長の清野町長から、履修者百十七人を代表して鈴木みよさん（西町）に、履修証書が手渡されました。続いて最多単位獲得の鈴木たかさん（西町）と、朝日町の昔話集を発刊したF21教育文化プロジェクトに、特別賞（朝日相扶製作所提供）が贈られました。

午後からは、笑点でおなじみの三遊亭好楽さんの「やりたいこと、やってますか？人生、好んで楽しもう！」と題した記念講演を開催。笑点の楽屋話などを交えながらのユーモアたっぷりの話に、会場は笑いの渦に包まれていました。

はつらつと芸能発表

高齢者福祉大会

長寿クラブ連合会主催による「朝日町高齢者福祉大会」が二月十六日、約二百五十人が参加して盛大に開かれました。

午前中は、町民体育館で輪投げやユニカールを楽しみ、午後から芸能発表が行われました。

出演者は日頃から猛練習に励んでいるとあって、「今夜は乾杯」「大漁唄い込み」などの舞踊をはじめ、民謡や大正琴などを、生き生きはつらつと見事に披露。なかには軽快なステップで踊るダンスもあり、詰めかけた大勢の観衆は「うまいもんだ、動きが若い」と感嘆の声を上げ、盛んな拍手をおくっていました。

この大会は「健康長寿のまちをめざして」と題して、毎年開催しているものです。

町の話題

歌手になった気分！ カラオケ愛好者が発表会

楽しく歌を唄い、共に親睦を深めようと二月二十五日、「朝日町連合カラオケ有志発表会」が農業団地センターで開かれ、五十一人のカラオケ愛好者たちが自慢の喉を披露しました。

この発表会は、各地区のほとんどの公民館にカラオケが設置されるなか、各地区の愛好者たちが一堂に会する発表の場があればと、十年前に企画。それ以来、毎年開かれているものです。

主催した連合カラオケ会は、助ノ巻や松程など八地区の愛好会で構成され、この日は会員およそ百三十人が出席しました。

音響は山形のプロを呼んでと本格的。出演者は歌手になった気分で、気持ちよく唄っていました。「みんな和気あいあいで、友達も増えてよい」「歌を通し自信も付くし、発表力も付く」となかなか好評。

会長の斎藤興治さん（常盤）は「みんな楽しみにしているんですよ。これからも続けていきたいですね」と、笑顔で語っていました。

キラリ光るプロのコツ ケーキづくりに挑戦

世界で一つしかない、バースデーケーキをつくろうと二月二十四日、「おもしろ塾」主催のケーキづくり教室が中央公民館で開かれました。講師は、おもしろ塾のメンバーでもある永勝堂の若旦那、布施裕一さん。プロのケーキづくりを楽しみにしていた二十人が参加しました。

はじめに、スポンジの生地やシロップ、仕上げ用生クリームの材料や分量割合の説明を聞いた後、さっそく挑戦。講師の指導を受けながら、思い思いのオリジナルケーキを作りました。出来上がったケーキは見事なものばかりで、講師もびっくり。参加者は「プロからコツを教えてもらってよかった」と、大喜びで満足した様子でした。

出演者なんと四〇〇人

第17回 北部地区素人演芸会

ユニークで楽しい恒例の北部地区素人演芸会が三月三日、新装された秋葉山交遊館で開かれました。十七回目となる今年は、同館の落成を記念し内容もさらに充実。四十七の出し物に総勢四百人が出演し、プロ顔負けの唄や踊りなどを披露しました。満員御礼の客席からは、次々と〝おひねり〟が投げ入れられ、なかには財布ごと出す人もいて、会場は大爆笑。一日中、盛んな拍手と笑い声が会場いっぱいに広がっていました。

花笠を持ち、そろいの衣装で熱演

拍手かっさいを浴びた時代劇「国定忠治」

この腰つき、表情はプロ顔負けです

ウワー、かわいいおひな様！

保育園児も初参加し、音楽劇「きのこ山伏」を披露

ポーズもバッチリ。演出もさすがです

しなやかな踊りで手さばきも見事。交流の輪が広がる

フィナーレは婦人会総出の花笠音頭

ユニークな踊りに会場は大爆笑

野外では「雪上カルタ取り大会」も開かれ、子供たちも大喜び

みんなのひろば

すてきな仲間たち

朝日町高齢者事業団

シルバーパワー結集

朝日町高齢者事業団は、おおむね60歳以上の方で、定年退職した方などを対象に組織しています。事務局は社会福祉協議会と同じ旧登記所内にあり、現在会員は80人です。

公共団体、企業、商店、一般家庭から依頼を受け、これまでさまざまな仕事で実力を発揮し、発注者から感謝の言葉をいただいております。

主な仕事として、公園管理、宿直、洗濯、自動車の運転、公衆トイレ清掃、草刈り、除草、庭木の手入れ、毛筆書き等々。また、豪雪に対しては、シルバーパワーを結集しての雪下ろしにがんばりました。

健康で働く意欲のある方、ぜひ加入してみませんか。これから大きく発展する朝日町高齢者事業団です。

さわやか新婚さん

西町
安孫子幸弘さん
直美さん

靴屋のお得意さんのパーティーで、たまたま一緒のテーブルになり話ししたのがきっかけで、付き合い始めたというふたり。デートは会社が休みの日曜日で、ゴルフの打ちっぱなしをしたり、ショッピングをしたりして楽しんだ。風邪をひいてごはんを食べられなかった幸弘さんが、デートをしたら直ったというエピソードもある。思い出の場所は安比スキー場。スキーの得意なふたりは、真っ白なゲレンデに愛のシュプールを描いたとか。プロポーズは、幸弘さんがアメリカ出張先から送った手紙でだったと、なかなかカッコイイ。幸弘さんの両親も「子供が男ばかりだったので娘のようにかわいい、毎日ほんとうに楽しいですよ」と、直美さんが来てくれて大喜び。すっかり家族に溶け込んでいるようです。

子供ができたら、朝日川で釣りをしたり、泳いだり、自然の中で遊ばせたいと語るふたりは、笑顔のすてきなさわやかカップルでした。

せんせい さゆり保育園 あ・の・ね

（四歳児保育室にて）

園児A「ぼく、すずきあおい」となりの園児のネームプレートを指して

園児A「この人、あんどうなみ、せんせい！ぼくのすずきと、なみちゃんのあんどうをとって名前ば一緒にすっと、あおいなみ（青い波）だね」

保　母「あ！海みたいだね」

園児と保母三人顔を見合わせて笑ってしまう。

遠藤直子さん
（舟　渡）

ひとことトーク

かいま見た 中国農村

～朝日町の良さを再認識～

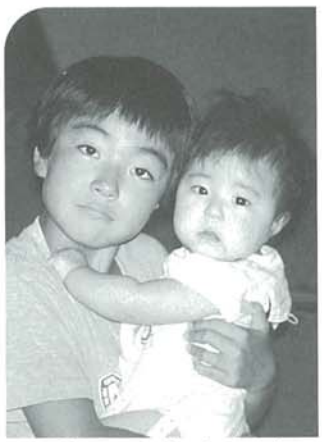
二月末から一週間の日程で、「志藤六郎村おこし基金・発見のつばさ事業」により、町内の農家の主婦五人で中国への視察研修に参加させていただきました。

北京、西安を訪れ農村の様子を中心に視察しましたが、旧正月明けの時期にあたったため中国の正月行事や、北京の近代的な姿と、西安の歴史を感じさせる姿など、中国の過去と現在を見ることができました。

また、農業の指導者と懇談したり、西安では旅行者は入れないという普通の農家を訪れることもでき、本当に貴重な体験をさせていただきました。

一週間朝日町を離れてみて、改めて自分の町の良さ、毎日の生活のすばらしさを再認識できたような気がします。どんどん、女性が外にでて朝日町を見つめ直して欲しいものです。

わが家のアイドル



「ワタチが泣くとお姉ちゃんがあやしてくれるの」
鈴木遥子ちゃん（１歳・松程）
（両親は裕さん・みゆりさん）

「はなよめさんとわたし、どっちがきれい？」
鈴木鳳華ちゃん（２歳・大谷一）
（両親は均さん・美香子さん）

「ハイ、ポーズ！」
吉田麻貴ちゃん（４歳・本町）
光汰ちゃん（２歳）
（両親は好伸さん・恵さん）

「ママ、ボクのことかわいくとってネ」
村山渉太朗ちゃん（１歳・太郎一）
（両親は裕司さん・久美さん）

おじゃまします 社長さん

ソーイングKハウス

（真　中）

平成５年に新築された社屋

代表　遠藤　清明さん
昭和29年２月15日生まれ
趣味　ゴルフ・将棋

▼会社では、何をつくっているのですか。

スーツやコート、ワンピースなど婦人服全般です。問屋から届いた生地を裁断縫製し、ボタン付けなどの仕上げをし、完成品で出荷します。

製品は東急や小田急、西武などの百貨店、山形ではセブンプラザやビブレで売っています。

▼会社の概要を教えてください。

東京で八年ほど縫製の仕事をしてきました。その後Uターンし、地元の縫製会社で妻と知り合い、結婚を契機に昭和五十七年に、「遠藤縫製」として独立しました。その後、平成五年に社屋を新築、「ソーイングKハウス」と名を改めました。

現在私と妻とパート三人、それに内職の方十人で、月に約九百着をつくっています。

▼自慢できることは何ですか。

多いときは夏物で三百枚、冬物は百枚ほどの生地を重ねて裁断します。ズレないように裁断する技術と、ていねいな縫製を自慢としています。

▼社長がいつも心がけていることを教えてください。

縫製の約七割を、内職の方に外注しています。ですから、内職の方との人間関係に、最も気を配っています。

わかりやすい パソコン教室

初心者を対象にしたパソコン教室が、農業研究所を主会場に二月二十八日から開催されました。テレワークセンターの完成に伴い、パソコンを操作できる人を養成しようと、町が主催したものです。この教室には「農業や商業の経営にパソコンを生かしたい」という十三人が参加し、なかには夫婦で出席したリンゴ農家の方もいました。

パソコンは初めてという人も多く、講師はゆっくりわかりやすく説明。参加者は一人一台ずつのパソコンを使って実際に操作したり、要点をメモしたりして真剣に取り組んでいました。

この延べ八日間の講習で、表計算や文章作成まで出来るようになった参加者たちは、「データーを入力しただけで、パソコンが自動的に計算してくれる」と、機械の威力を実感。「自分の経営をしっかり把握するためにも、これからはパソコンを使って、農業簿記や伝票作成、顧客管理をしてみたい」と意欲を燃やしていました。

人物インタビュー

〈プロフィール〉
阿部　陽子さん
元町・双子座・A型
送橋小学校勤務

Q趣味・特技は？
旅行が好きで、年に一回は海外旅行に行きます。友だちと街を歩きながら、その国の文化や生活にふれる旅がいいですね。

Q休日の過ごし方は？
掃除に洗濯…、あとは映画を観に行ったり、友だちとカラオケに行ったりしてリフレッシュしています。

Q今、してみたいことは？
日本語教師の資格を取って、海外で日本語を教えたり日本の文化を伝えたりしたいです。今、県と姉妹都市を結ぶインドネシアのイリアンジャヤに関心があります。そこで日本語教師をやってみたいです。

Q理想の男性と結婚は？
すっかり忘れていました。一緒にいて安心できる人がいいですね。
それから…、黙って俺について来いなんていう人がいたら、ついて行ってしまうかも…。

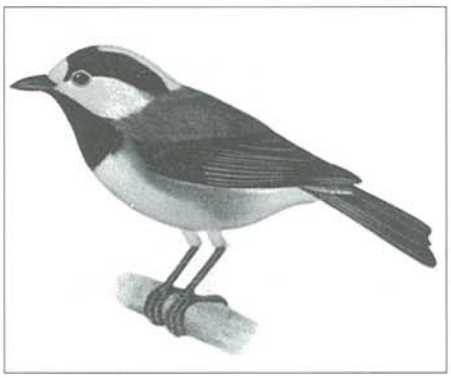
Qどういう町にしたいですか？
花や緑がいっぱいの町、笑顔がいっぱいの町、おいしいものがいっぱいの町、そんな町に住んでいたいですね。

ぼくのおばあちゃん

西　原
阿部晃二くん
（宮小３年）
ひいおばあちゃん　きんさん（87歳）
おじいちゃん　光夫さん（67歳）
おばあちゃん　ひでさん（63歳）

ぼくの家には、八十八歳になるひいばあちゃんがいます。きんばあちゃんは、左目があまり開けられないし、耳も悪いのでほちょうきをしています。でも、とても元気でやさしいばあちゃんです。
きんばあちゃんは、りんごを上手にむいたり、ぬい物をしたりしています。ときどきじいちゃんに、
「じっとしてていいず。」
と言われているけれど、ぼくはそういうきんばあちゃんが大すきです。
―晃二―

図書券が当たる 広報クイズ 今すぐ応募しよう！



【問題】
問1　左の写真の鳥の名前は？（ヒント　町の鳥に制定されているよ）
問2　生涯学習推進大会で講演したのは、三遊亭○楽さん。さて、○に入る漢字は何かな？
問3　今回の3歳児虫歯ゼロのお友だちは、全部で何人？

【応募方法】（3月31日締め切り）ハガキに答えを記入し、住所・氏名・年齢・電話番号を書き添えの上、宮宿一一一五朝日町役場内「広報あさひまち」まで。
正解者の中から抽選で3人の方に、図書券をプレゼントします。どしどしご応募ください。

【2月号の当選者】川村奈緒子さん（真中）・柴田美代子さん（大滝）・佐竹景子さん（能中）

【2月号の答え】りんご温泉・4人・B

県内でただ一人 緑白綬有功章を受章

佐藤正道さん（宿）

和合でりんご作りに取り組んでいる佐藤正道さんが、社団法人大日本農会から県内でただ一人「緑白綬有功章」を受章しました。

同会は、明治十四年に設立され、桂宮宜仁親王殿下が総裁をつとめる権威あるもの。朝日町では初めての受章で、山形県でもまだ二十五人しか受章していないという、価値ある章です。

佐藤さんは、山形朝日農協りんご組合初代組合長や県の指導農業士を歴任。自らの営農経営の実践を通して、町りんごの振興、無袋ふじの技術普及による「天狗印」の銘柄確立など、地域農業の改良、発展に大きく貢献した功績が認められ、このたび受章したものです。また、受章者の中から特に選ばれて、東京でも発表を行いました。

二月二十四日に農業団地センターで開かれた「受章を祝う会」には、町や農業関係者など約百六十人が出席。佐藤さんは「りんご栽培に情熱を燃やし銘柄産地を確立した先人、先輩たちの努力が評価されたものであって、この章はみなさんの物です。今後さらに良質生産、コスト低減、安全性を重視し、消費者や市場に、より一層信頼を得る産地づくりに努めていきたい」と、謝辞を述べていました。

農業で会社をつくった 羽黒町 庄司さんが講演

朝日町農業大学が２月22日に中央公民館で開かれ、「わたしの実践農業『ただ今、夢から実現へまい進中』」と題して、羽黒町の庄司祐子さんが講演しました。

庄司さんは嫁いでから農業を始め、現在水稲やメロン、カーネーションなどを栽培しています。平成６年４月には「農業経営を魅力あるものにしたい」と、夫と２人で有限会社「Ｊ・ファーム」を設立。特別栽培米の「風のコシ」や無農薬メロンを、メッセージ付きで全国に宅配しています。

さらに、自宅近くに農産物直売所とレストランを兼ねた店舗も建設し、新たな農業に積極的にチャレンジしている方です。

講演では、農業は素人だったため、農協や普及センターに毎日勉強しに行ったことや、自ら青申をつけ経営を見直したこと。有限会社を設立しての利点や、店舗建設の経緯などを熱っぽく語っていました。

人気キャスター鳥越俊太郎さん 地域開発講演会で来町

ニュース番組「ザ・スクープ」の人気キャスター鳥越俊太郎氏を講師に迎えての、朝日町地域開発講演会が三月四日の夜、中央公民館で開かれました。

テレビでおなじみとあって、ぜひ生の声を聞いてみようと、約百五十人がつめかけました。

鳥越氏は講演で「今、何が問題とされているか」と題し、日本中が注目を集めている住専や厚生省のエイズ薬害問題を、政界の裏話を交えながら分析。さらにアメリカの例を上げながら、二十一世紀の日本はほんとうの意味で、自分の責任で自分で判断する社会をつくらなければならないと、訴えていました。

まちづくり寄付金

鎌倉在住の多田昭衣さん（本町出身で、自然観のデザインなどに特にご尽力いただいた、故多田拓生氏の夫人）より、まちづくり寄付金として十万円を寄贈していただきました。

ばあちゃんの知恵袋 ⑩

お彼岸にかかせない「あけびの煮物」、この調理法なら若いお嫁さんにもとてもおいしくつくれます。ぜひ、試してみてください。

＝材　料＝

干しあけび	300 g	砂糖	300 g
つぶし豆	5 合	塩	少々
豆　腐	5 丁	醤油	1 合 Ⓐ
人　参	大 1 本	砂糖	300 g Ⓐ
ごぼう	1 本	油	適宜
油揚げ	7 枚		
干しいたけ	10 枚		

【作り方】

①干したあけびをよくもどしておく。
②耳たぶ位の柔らかさに豆腐を絞り、すり鉢でよくする。砂糖 300 g と塩少々を入れて、まぜ合わせる。
③人参、ごぼう、油揚げ、もどしたしいたけをしぼり、千切りにし、つぶし豆とともに②に入れよくまぜる。
④もどしたあけびに具をつめる。
⑤鍋に油を多めに入れ、あけびの口を下向きに並べる。鍋肌から、あけびにかぶるくらいの熱湯を回し入れ、すぐ煮立てる。
⑥Ⓐを加え、弱火で汁がなくなるまでよく煮ふくめる。
⑦あけびが大きい場合は、半分に切り、白い切り口を上にして盛り付ける。

佐竹とし子さん（松　程）

豆腐を使ったあけびの煮物

各種大会成績

■第32回　町民卓球まつり
（1月28日　朝日町民体育館）

団体戦優勝　送橋チーム

小学男子シングルス
1位　伊藤　　勲（水本小 6 年）
2位　長岡　広志（西小 6 年）

小学女子シングルス
1位　佐竹　沙織（西小 6 年）
2位　菅井　沙織（西小 5 年）

中学男子シングルス
1位　鈴木　秀和（西船渡）
2位　佐竹美千善（八ツ沼）

中学女子シングルス
1位　長岡　美奈（太郎三）
2位　布施　洋子（西　町）

一般オープンダブルス
1位　滝川　芳巳（本　町）
　　滝川　雅子
2位　浦山　浩之（送　橋）
　　渡辺　秀一

親子ダブルス
1位　丹　　明美・美湖（西船渡）
2位　石塚　悦雄・渉（四ノ沢）

■第22回　家庭婦人バレーボール大会
（12月10日　朝日町民体育館）

1位　常長夏ハッスルママチーム
2位　八ツ沼若妻チーム
3位　大谷田中チーム
3位　太郎Aチーム

よくわかる「エコミュージアム」入門 ⑨

町の宝物に光をあてる

「山形県の歴史は朝日町から始まった」と言っても信じない方が多いと思いますが、本当の話です。

その証拠に、山形県発行「山形県史第一巻」の一番最初に、明鏡橋のすぐ近くにある「大隅遺跡」のことが書かれています。

戦後の考古学で最大級の発見といわれる「旧石器時代の発見」は、教科書でも紹介されているとおり、群馬県の岩宿遺跡とされています。

しかし、この山形県史には、旧石器時代の「事実上の日本最初の発見」は朝日町大隅遺跡だったことや、その発見に関わった朝日町の研究者たちのことが書かれています。

残念ながら、まだ日本での旧石器最初の発見は朝日町だとなっていませんが、大事なことは地域を愛し、地域の発展のために活動され、全国的に通用するような活動をしていた人たちが、昔から朝日町におられたことだと思います。

惜しいことに、大隅遺跡は教科書で紹介されるまでには至りませんでした。でも、こうした人たちの活躍があったからこそ、山形県史の最初に、私たちの町のことが紹介されたのです。

今では、大隅遺跡は人知れず忘れられようとしていますが、シンポジウムを行うなど、しっかりした光のあて方をすれば、県や全国レベルの価値を持つ、町にとってかけがえのない宝物になるだろうと思います。

エコミュージアムの仕事は、朝日町に埋もれている宝物に光をあてることです。

（朝日町エコミュージアム研究機構）

旧石器時代の「日本で最初の発見」と注目を集める大隅遺跡

■広報あさひまち　第472号　平成8年3月15日発行　■発行　山形県朝日町　■編集　朝日町広報委員会／山形県西村山郡朝日町大字宮宿1115　☎0237(67)2111　■印刷　豊田文印刷所

こせきのまど

■2月1日～29日届出

すこやかに

（出生届）

区名	出生児氏名	父名
大町	伊藤好綺	俊幸
立木	阿部幸大	俊幸
元町	鈴木海斗	高光
元町	浅井翔太	周一
大隅	菅井澪	和則
前田沢	會田春佳	孝義

おしあわせに

（婚姻届）

伊藤淳	♥	齊藤禎子
大町		大町

やすらかに

（死亡届）

区名	死亡者氏名	世帯主
助ノ巻	布施マサヱ	敏
沼向	鈴木たけ子	正一
舟渡	五十嵐やそゑ	正
松程	佐竹真弓	セイ子
本町	三嶋マツヨ	マツヨ
宇津野	星野いさを	重郎
四ノ沢	安藤タマノ	タマノ
四ノ沢	柴田はなゑ	はなゑ
大谷四	伊澤てる	てる
西町	鈴木キヨ	武男
舟渡	堀ナカ	眞一郎
四ノ沢	庄司すえ	すえ

人口と世帯数

●平成8年2月29日現在

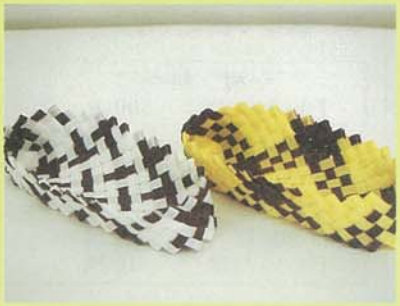
人口		10,005(減 8)
	男	4,978(増 4)
	女	5,027(減12)
世帯数		2,580(減 4)

（ ）内前月比

わたしの作品

〈高齢者センター民芸部〉

くだもの籠と手さげ
阿部惣吉さん（西町）



おしぼり入れ
佐竹秀夫さん（松程）

くず入れとくだもの籠
遠藤きみさん（真中）

はけごとくだもの籠
阿部キチノさん（立木）

成人式のお知らせ

■期日　4月29日（みどりの日）
■場所　中央公民館

昨年の成人式

春夏秋冬

編集後記

▼うれしいニュースが飛び込んで来た。山形県市町村広報コンクールで、広報「あさひまち」が広報紙と組み写真の両部門で、入選したという知らせである。広報を担当している者にとって最高の喜びではあるが、広報委員と町民の多くの方々から、協力とご支援をいただいたからに外ならない。▼広報クイズの答えと一緒に、広報紙へのコメントや楽しいイラストを送ってくれた方もおり、ずいぶん励みになった。これからも、親しまれる広報紙でありたいと思う。（安藤）